俳諧
草紙

八重九譜

里人下野

松壇樓
和古画

新郎新婦に示す

[illegible]

味[illegible]ひやしの[illegible]

[illegible]

新[illegible]を祝[illegible]

紅[illegible]二輪が

凝つて花氷

紅艶子

祝賀の光栄に浴して

潤はふや都[illegible]

[illegible]を祝[illegible]

水巴

俳諧草紙八幡[illegible]　臨時[illegible]

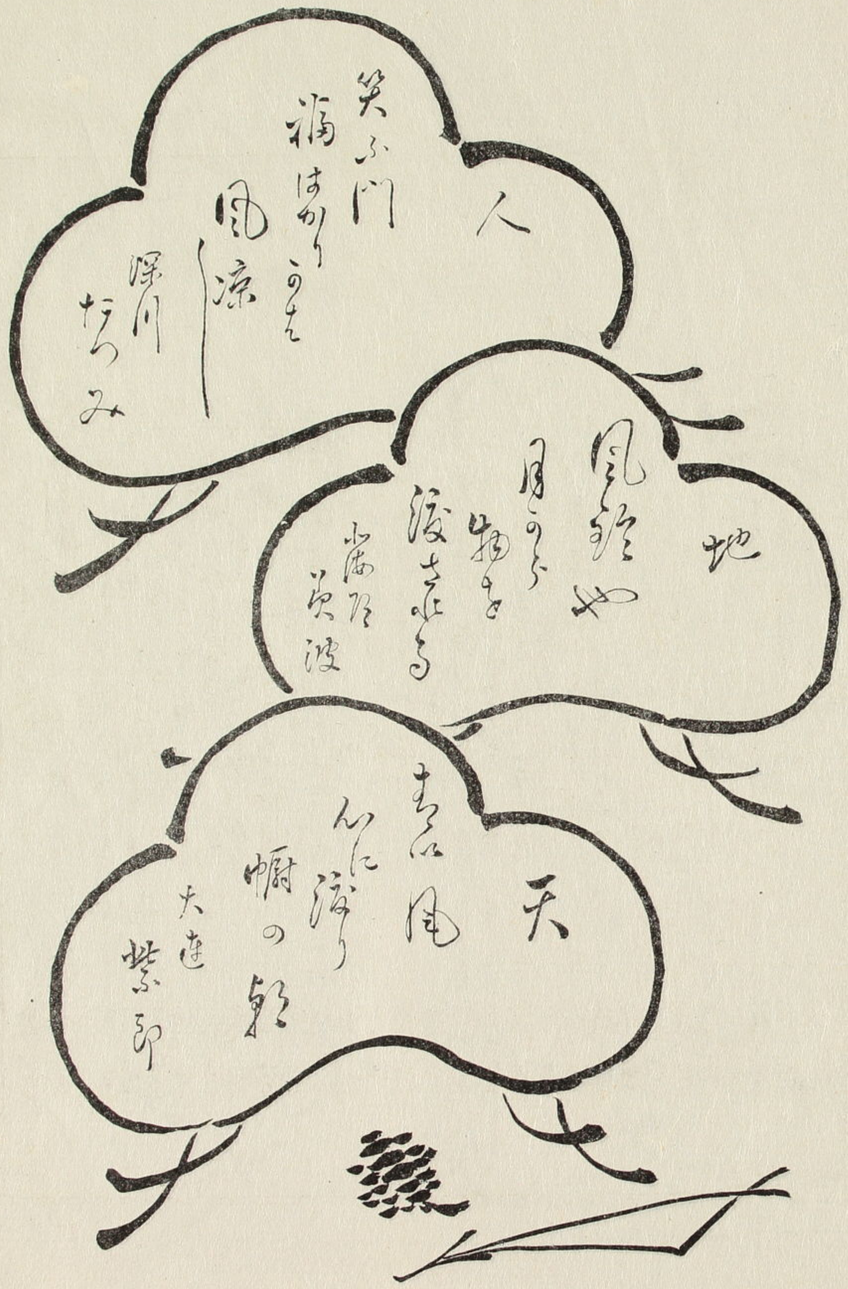
[illegible]

夷夏混[illegible]

[illegible]福[illegible]

五味松濤祝賀選

[illegible]


人
笑ふ門
福来たる
風流
地
天
大連
紫印

選　紅梅の子　俳句賀選

秀逸

[illegible]

五　宮（一覽）

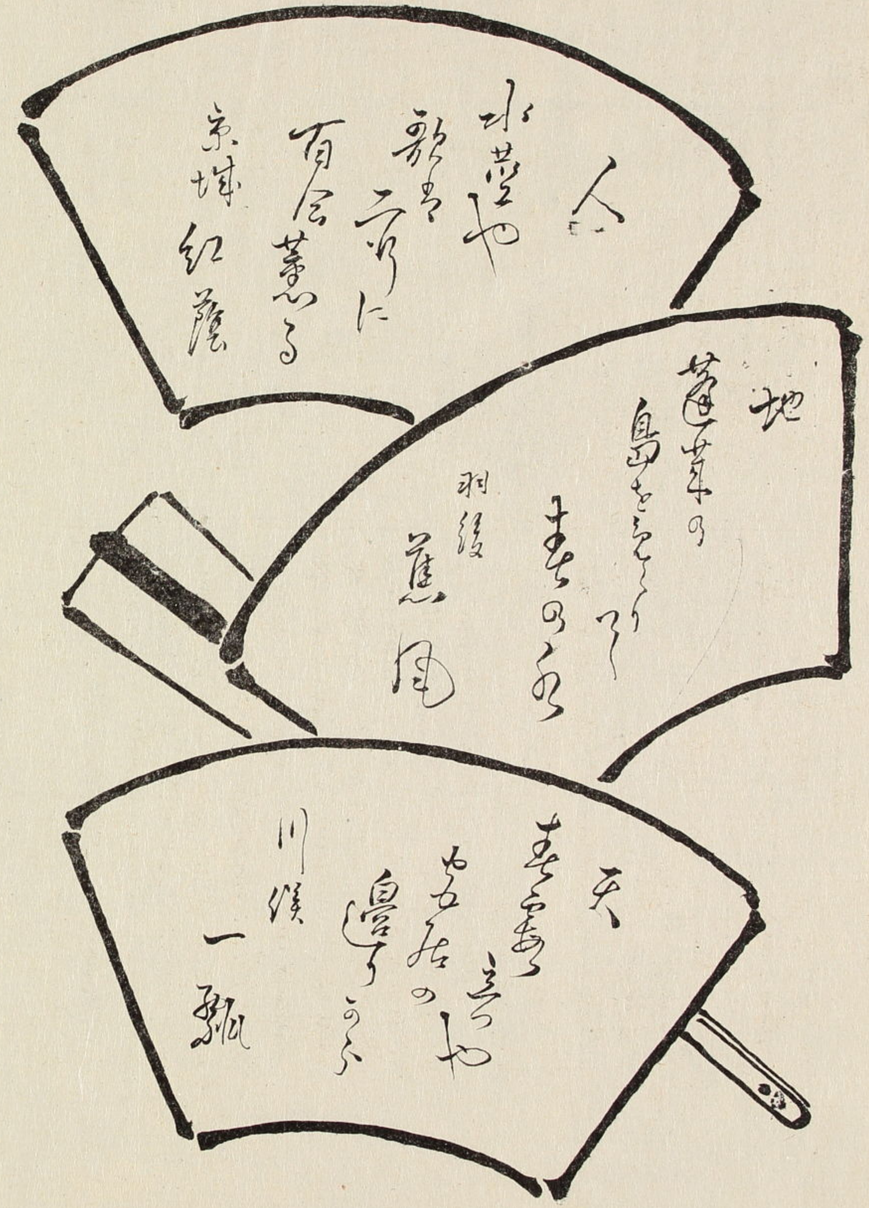
中著の福ら雀地の雲
[illegible]
[illegible]
[illegible]

渡邊水巴句集選

[illegible]

川俣雲外　一茶庵南枝　松尾南枝　川俣水巴　[illegible]　横須賀三坊子　川俣陸青　武田風雨子　下岩風雨　羽根道風　大坂清風　岩代蕉翠　茨城迷羊　川俣机友　大坂清風　岩代道翠　羽根道風　下岩風雨　福島武田雨雷　福島平蛍月　岩代蕉翠　和歌山花石　和歌山花雨　岩代蕉翠　川俣牛雷　川俣[illegible]　[illegible]　茨城迷羊

川俣机友　岩代蕉翠　京都邦丸　和歌山花石　和歌山松雨　岩代蕉翠　下岩[illegible]　北海道美波　羽根道秋仙　福島[illegible]本　京都[illegible]　岩代蕉翠　京都紅雨　岩代蕉翠　千葉天茶子　福島牛雷　福島山[illegible]　岩代蕉翠　福島南枝　川俣[illegible]　茨城千蕉　[illegible]　大坂清風　下岩風翠



御挨拶の辞に代えて

岩代　渡邊水巴舎

俳諧を我八十九歳で不肖私の結婚に對して態々臨時歸郷まで列行せられて同慶を當つて云ふ事は實に俳人としての光榮、而已ならず単深き俳色に富む身の冥加此上なき次第で感謝を中し筆紙にし難き次第であります。

之は偏ひとへに私が諸君と共に八十九歳列列次第法女の席末を汚して居方ち俳諧の徳であると信じて疑はぬのであります。

さて私が誠心誠意に實に諸君の面前に告白して此一事は決して松塘先生の情く思ふてゐる事であらうと主は遠迎時諸たのであります。

此英徳を默々裡に埋めるると云ふ事もまだ不幸と思ふ。

ところが實ふ先生の御講を以て發表する次第であります。

この八十九歳の時号まで出して不肖私の婚儀を祝賀されると云ふ事は、世の中では松塘先生と私と何ら密接な干係の方丈は平素親交でもある様にお思ひでせうが実は驚く可しー！。先生と私は未だ一会の面識も無こうして第一番に見参致のお方なのです。

然て第後の交通もなく共無新れ拙句して拙句の作のものなのです。

私の友人の如きも窃ち意外に思つて私の幸運を羨望して居る次第であります。

而して先生の御清意は実に宮本武都鄙遠近の美名なりしも、八十歳の話なにーあれば敬て祝詞を聞こ將来世に祝福を出をお来がお悲しみないと云ふ御希望なのであります。

何とお美しい御心情ではありませぬか。

実に稀有の御清意に接くにも拘はず獨り御擅に此人あると云ふ事は誠に孤ぶしい次第であります。

又松塘先生の英華あれば言下に清次の書翰を書ますと諸君の男子も感謝に堪へあります。

此点の下に思信の一句を拙句の下に弱年なりと云ふの事でせう。

実に松塘先生の言葉を彰一出源諸君に向て感謝百拝する次第であります。

八まん種改號に就て

八まん種は出版法家の所看板を次と変に出版を発行する事としました。さぬが何の故に改號したか此時に號名を更てはいてくれて仕様がないのです。決して今の名が悪くも亦気に入らぬのでもなく。又既にたくさん〜この名をつけてみたものですから之を改めて新時勢の推移に適合するもせぬしない訳です。只何の謂れもない改號でしたらそれまでなのです。或は一流の奔放癖から或は何者かの暗示かもしれないです。或は何者かの暗示かもしれないですから強いて逆らはずに仕方なしに任かせていよ〜改號と云ふ事に決定しました。併しイクラ聴の出の出要求でも號名だけはこちらに一任させて貰ふねむりませんアレコレと種々詮策を試みました。故の中の小石の様にチヤリ〜と歯を浮かせる様な名を真っ平です。矢張八まん種と云つて様な古雅な味のある。尚潔にして或る意味を語ると云ふ名が欲しいのです。そこで『かまら版』と云ふ名を得ました。この名版と云ふものは若心中だから又は名変な出来事を綴れたものです。今語の年寄は少滑稽の答ですが。丁度只今の俳句の様ふなので見聞つけて中例をしる江戸の所中を書つて歩行いたものです。『八まん種』を或る學者が『古魂新才』と評されました。実に改號して愈〜益〜古魂新才の実を挙げようと思ひます。出版家諸君も共に〜〜御助力あつて信用の御愛読あらん事希望して止まぬ次であります。

近て田名八まん種は地盤上の進歩の方一保存一筆〜考へであります。

遅刊に就て御詫び

去る五月十日を以て次切なる本誌時雨は例く二月分の長時日を以て刊行する事となりました。此在再遅刊〜なる故のまは折から主幹の病褥に呻吟する為或は推評に意外の時日を要〜なる事の諸事情に餘儀なく出て此方〜的遅刊を敢てするの止むなきに至りました併〜ら此遅刊を確〜失態を敢てするものは爾を主幹の不徳の致さる所と重に引責陳謝御了承迄を願せあるなり

大正四年七月中浣

主幹 謹白

俳句版 初篇 俳句募集

◉夏季混題　入花（誌代送費共）拾句一組金貳拾錢　餘一句毎に金壱錢増

五味松塘選

天賞（金壹圓）地賞（金入拾錢）人賞（金五拾錢）外五名（金四拾錢相当の美賞を呈す。■三才五名入選吟を宋村和夫画伯の俳画を配し特別欄に掲載す。

餘興欄

◉互撰俳句　入花一句　金五錢宛

課題（涼し）

出句者惣互選

高点一号より八号迄美賞を呈す

◉はめ込俳句　入花二句一組　金五錢宛

題

ここここ　あるあるあるにこここ

時鳥　ト　ト　ト